

横浜市における国際園芸博覧会の内容の検討状況

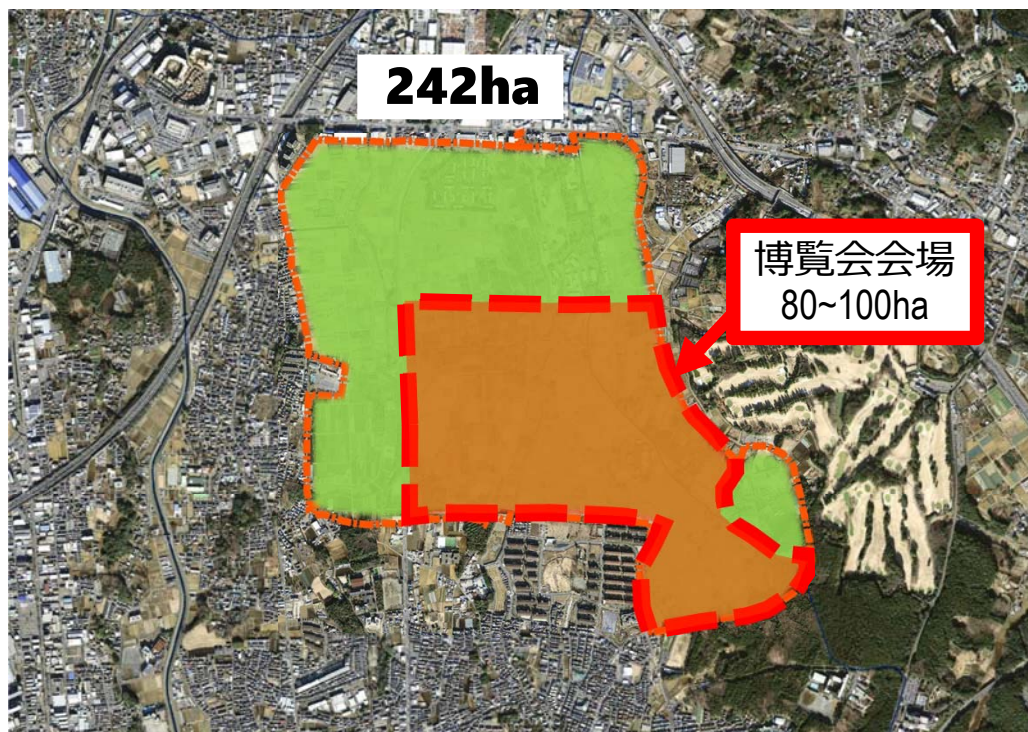


- **博覧会後のまちづくりのあり方**
- **博覧会における来場者輸送計画**
- **博覧会の機運醸成**
- **検討スケジュール**

これまでの経緯

- 平成27年 6 月 上瀬谷通信施設返還
- 平成28年 4 月 跡地利用ゾーンの考え方を提示
(横浜市 → 地権者)
- 平成29年11月 民有地地権者により組織される
「旧上瀬谷通信施設まちづくり協議会」設立
- 平成30年 5 月 土地利用基本計画(素案)**
(まちづくり協議会・横浜市作成)
- 平成30年12月 要望書の提出 (市施行の区画整理の実施、
新たな交通の整備検討等)**
(まちづくり協議会 → 横浜市)
- 令和元年 6 月 土地利用ゾーン案提示
(横浜市 → まちづくり協議会)

博覧会の会場用地の確保の考え方



※会場位置は検討中のものであり確定したものではありません。

旧上瀬谷通信施設地区
約242ha

【現在の土地所有内訳】

国有地	約110ha
市有地	約 22ha
民有地	約110ha

土地区画整理事業により、博覧会会場となる区域に国有地を
集約する予定

まちづくりの方向性としては、本地区の特徴や博覧会の理念・事業コンセプト等も踏まえ、「グリーンインフラの概念」をまち全体に取り入れ、**未来にわたり、新たに人や企業を呼び込むような土地利用をイメージ**

<まちづくりのテーマ>

みらいまで広げるヒト・モノ・コトの行き交うまち

- ◆ **上瀬谷の可能性を最大限に活かし、普遍的に存在する課題のみならず先進性を取り入れるまち**
- ◆ **ヒト・モノ・コトが行き交い共有・連携(シェア・リンク)することで新たな価値を生み出すまち**
- ◆ **持続的に発展していくまちを未来まで広げていく、波及効果がみなとみらいまで届くようなまち**

まちづくりのテーマをもとに整理したまちづくりのイメージ

■ヒトが集まる・つながる・行き交う

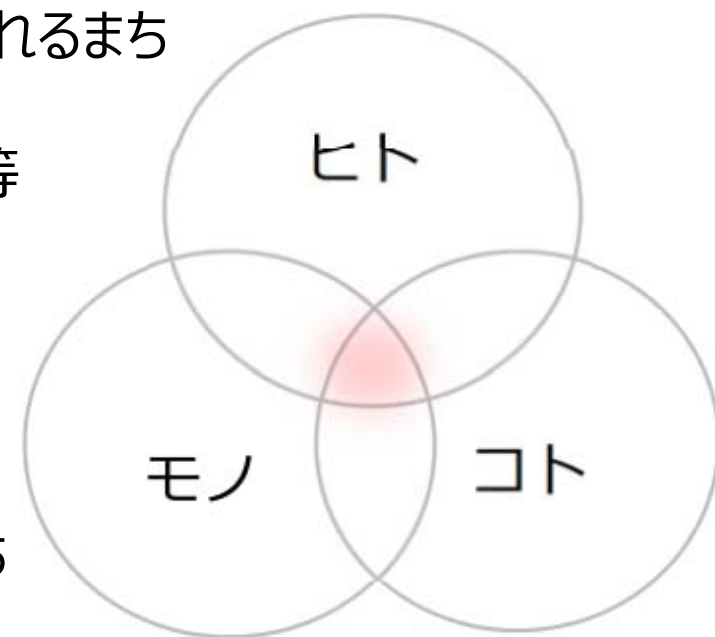
- ・**緑の環境が人を潤す**まち、緑豊かな広々とした学ぶ場のあるまち
- ・広がりのある農空間のなかで、**農と人との交流**が生まれるまち
- ・広大なオープンスペースを有効活用することで人が集まるまち 等

■モノが生まれる・行き交う

- ・農業基盤の整備や**先進的な栽培技術の導入により営農環境**が充実したまち
- ・農業の6次産業化により農畜産物に新たな付加価値が生まれるまち
- ・**自然や農ある環境を活かした研究や学問が立地**するまち
- ・経済を豊かにする情報・モノ、災害への備えが集積するまち 等

■コトがはじまる・行き交う

- ・**圧倒的なスケール感を活かした広場・空間**で賑わいが
うまれるまち
- ・新たな発見や体験ができるまち
- ・ここで採れた良質な農畜産物の味わい、農の魅力を感じるまち
- ・**官民協働により、多様なサービス、価値観**が生まれるまち 等



まちづくりのイメージを構成する土地利用の内容について、 3つの要素で整理

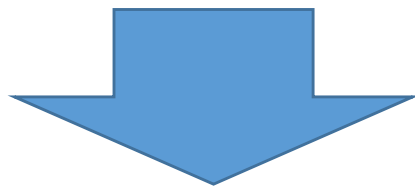
要素	意味
農業振興	活力ある都市農業の展開 (市民と農が触れ合える場の創出等を含む)
活力創造	産業振興、賑わいや交流を促進
公共・公益	本市を含む広域的課題や地域課題を解決

博覧会とまちづくりの関係

上瀬谷通信施設の跡地全体で

博覧会のレガシーとして、

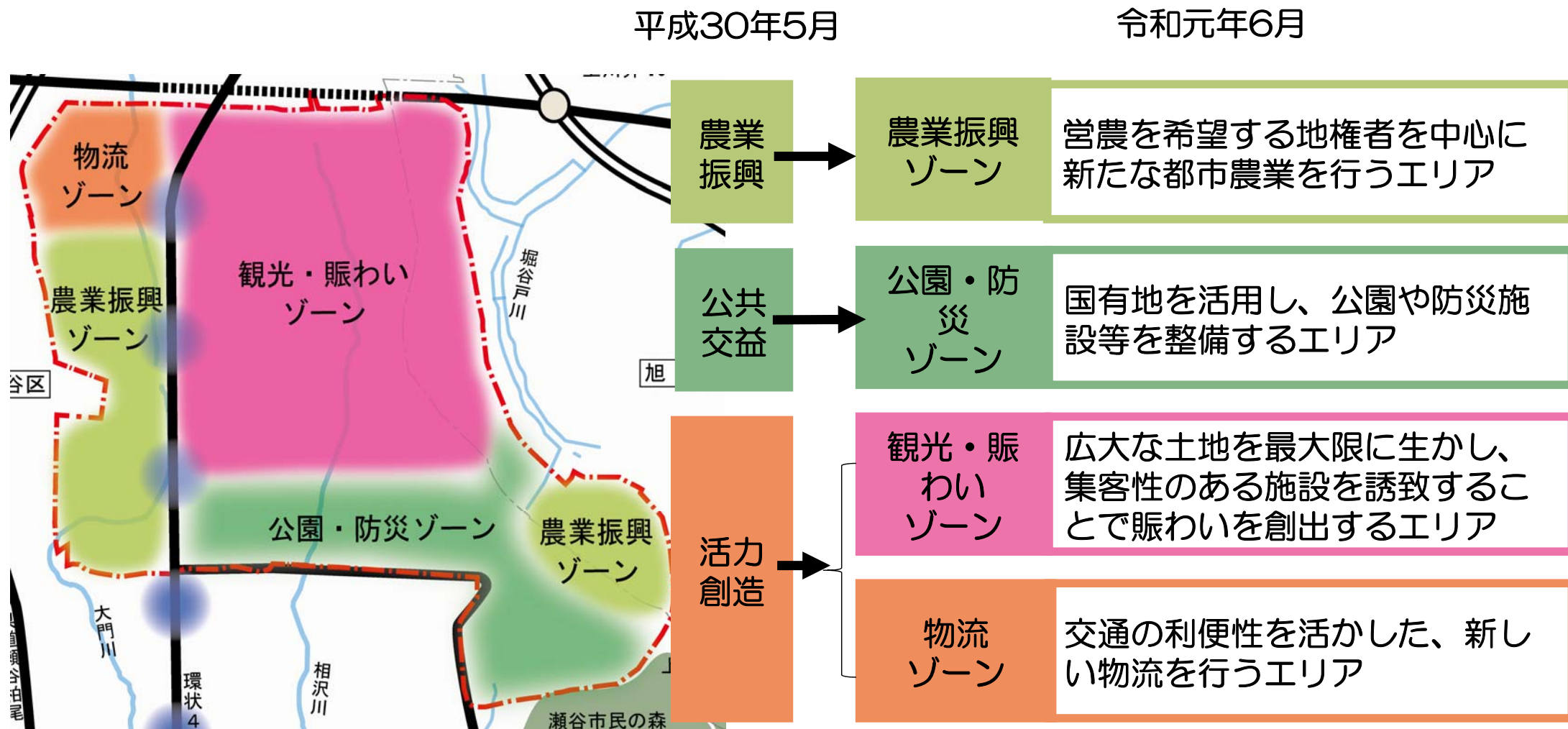
- ・自然や農と共生したにぎわいのある新たな都市モデルを提示
- ・その際、自然や農と人との新たな関り方の提案にもつながるような、グリーンインフラや次世代農業・農の新たな実践モデルを展開



国内外に広く発信



土地利用ゾーン案



土地利用ゾーン案（令和元年6月 横浜市案）

※検討中のもので確定したものではありません。

グリーンインフラを実装した新たな都市モデルの提示

跡地全体でグリーンインフラを実装し、環境保全や景観形成、防災・減災、レクリエーション、農作物の生産等の機能のほか、環境教育、多世代交流によるコミュニティ形成の機能等、自然環境が有する多様な機能を最大限活用した新たな都市モデルを構築します。

市街地(公園・緑地、道路等)



グリーンインフラ



樹林地



河川・水辺



農地



屋内



出展：テクノロジーニュースサイト GeekWire

農の多面的な機能を発揮する次世代農業・農の新たなモデルを展開

高収益作物の栽培や6次産業化、IT等を活用した都市型スマート農業を展開するほか、大学と連携した新たな農業・農のあり方の研究や人材育成の拠点とするとともに、農園リゾート、農福連携など農の新たな領域を広げます。

効率的安定的な農業経営モデルの構築



都市型スマート農業の展開



大学と連携した新たな農業の研究や次世代育成、国内外からの研修の拠点



地産地消、食育、交流、農福連携、セラピー



グリーンインフラの骨格を形成するとともに、博覧会のレガシーを継承・発展する拠点として、博覧会会場の半分以上を都市公園として永続的に保全・活用。大規模災害時の広域応援拠点の機能も導入。

博覧会のレガシーを継承する公園施設を有効に活用していくとともに、公民連携による新たな公園の活用を展開します。また、グリーンコミュニティの研修拠点として、様々な人、企業、団体が交流する場を提供します。

博覧会のレガシーを継承する公園施設の活用



公民連携による新たな体験



防災拠点



農体験



グリーンコミュニティの研修拠点



環境学習



観光・賑わいゾーン

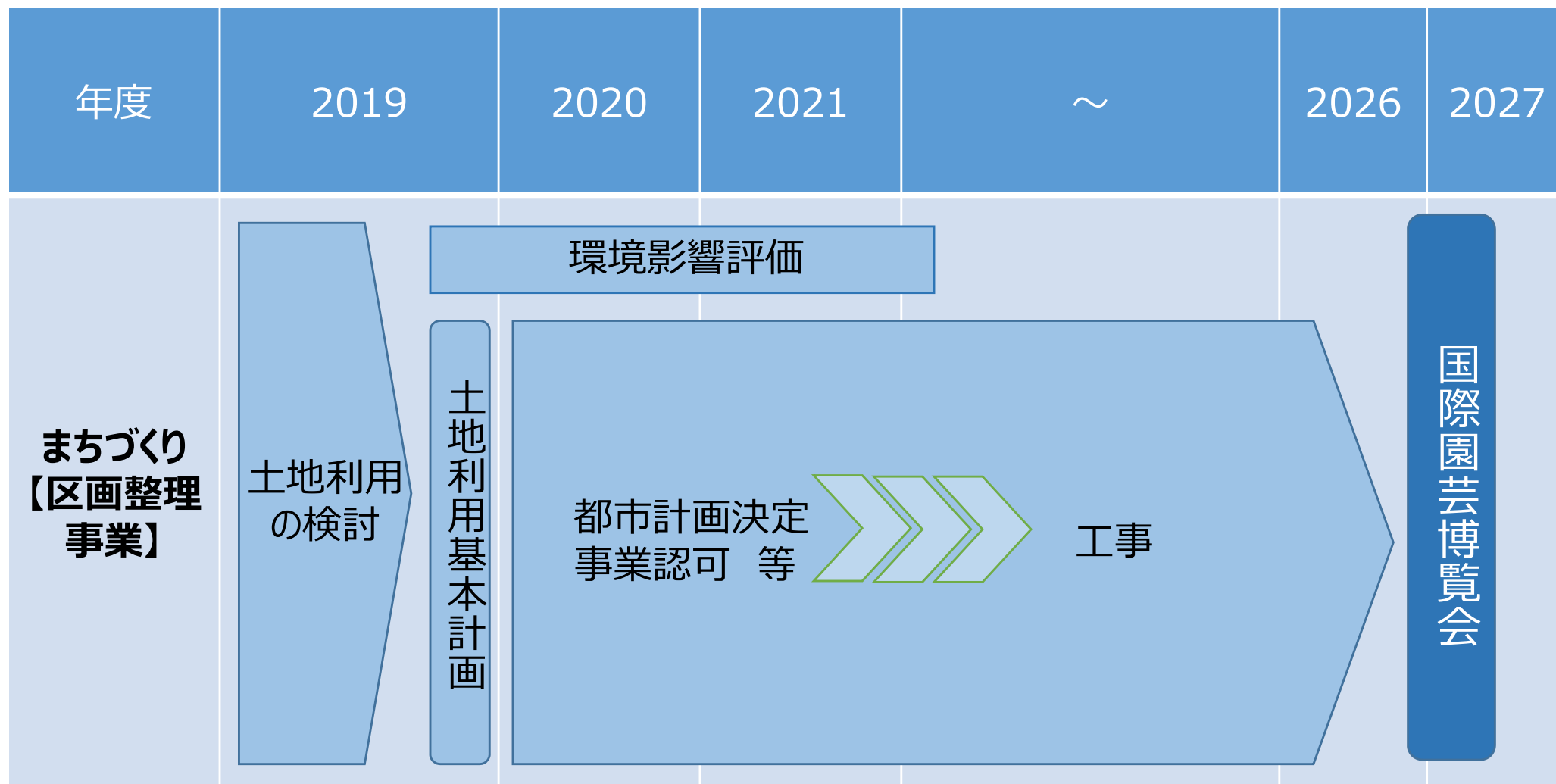
大区画化による土地利用を前提に、集客力の高い施設を誘致し、賑わい振興を図ることを想定

物流ゾーン

交通の利便性を活かし、物流事業を取り巻く課題に対応した、新しい物流システムによる大規模物流施設を想定



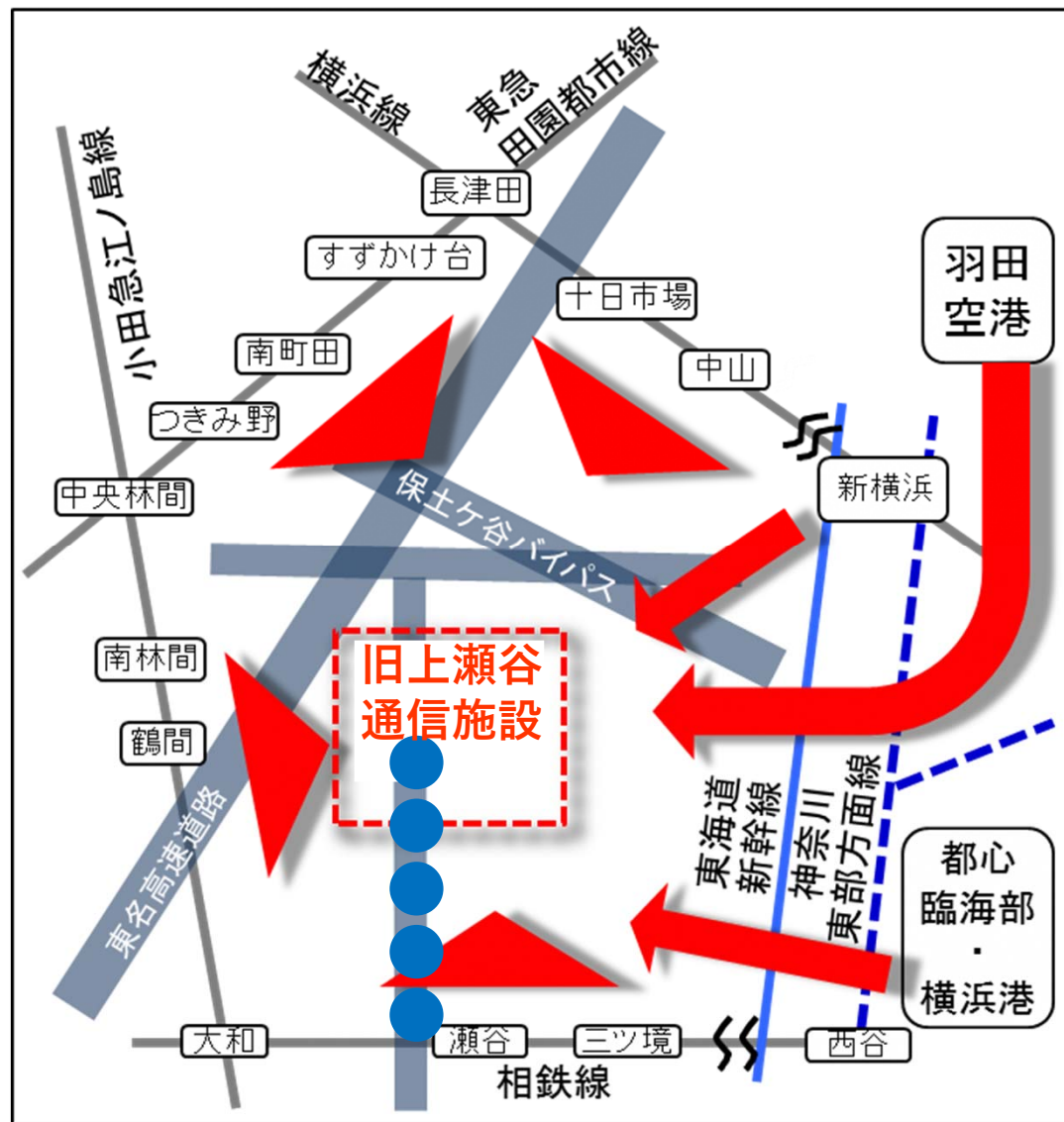
今後のまちづくりのスケジュール



- 博覧会後のまちづくりのあり方
- 博覧会における来場者輸送計画
- 博覧会の機運醸成
- 検討スケジュール

博覧会における来場者輸送計画

～輸送計画の考え方～ 多方面に分散させる輸送計画



博覧会における輸送計画の検討（R1年度）

理論と統計に基づいた推計モデルによりイベントの来場者を予測算定

来場者シミュレーションの実施

前提条件の設定

- ・会場位置
- ・開催時間
- ・開催期間
- ・入場条件
- ・周辺の状況
(土地利用計画、新たな交通、道路改良等)
- ・その他条件

来場者数等の算出

- ・地域別
- ・日別
- ・交通手段別
- ・路線別
- ・会場内滞留者数
等

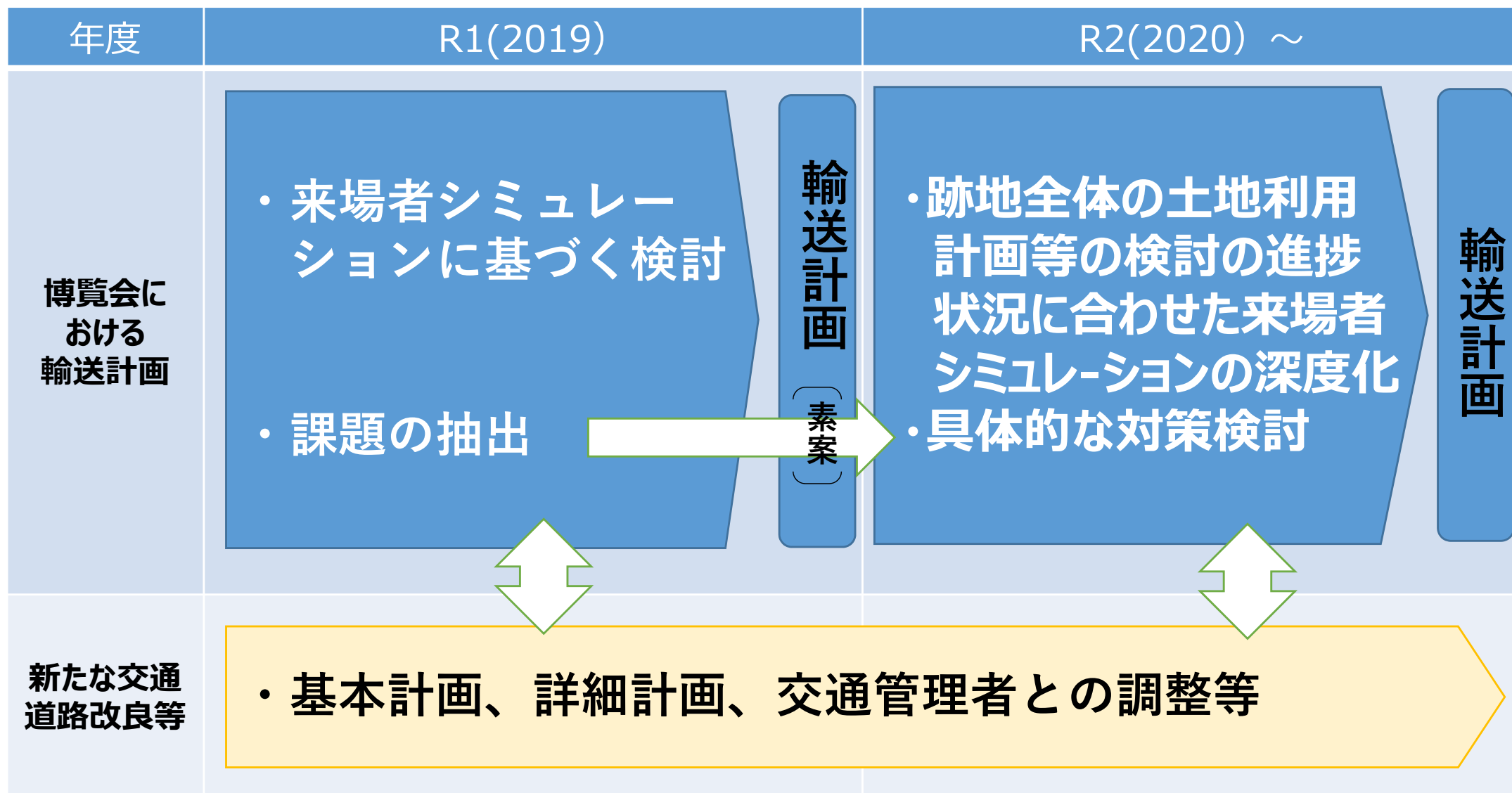
交通手段別利用割合 の算出

↓
各交通手段別
輸送計画の検討
(駐車場計画含む)

↓
問題点・課題等の
抽出と対策の検討

輸送計画（素案）の策定

博覧会における輸送計画の検討



- 博覧会後のまちづくりのあり方
- 博覧会における来場者輸送計画
- 博覧会の機運醸成
- 検討スケジュール

機運醸成戦略のイメージ

博覧会開催に向けた機運醸成だけでなく、閉会後も博覧会のテーマ「幸せを創る明日の風景」の理念を継承、発展させる仕組みづくりを目指す。

全国
都市緑化
よこはま
フェア
・
ガーデン
ネックレス
横浜

成果の
継承
発展

参加意識の
盛り上げ

国際園芸
博覧会の開催

理念継承
レガシー活用



博覧会招致に向けた、地域住民、関係者等への周知

- ・ 瀬谷区、旭区を中心に市内18区連合町内会への説明
- ・ 地元の推進団体による横断幕の掲出（区役所、J A横浜、瀬谷駅）
- ・ アフリカ開発会議、ラグビーW杯等の大規模イベントや里山ガーデンフェスタ等でのポスター掲示、チラシ配付
- ・ 地元自治体、経済界等により機運醸成等を図る団体として、「国際園芸博覧会横浜誘致推進協議会」を設立（令和元年5月）

⇒ 国内外の個人、企業、団体、都市など多種多様なターゲットに向けた戦略的な機運醸成が必要

【参考】2019年度の広報スケジュール

時期	主な実績と予定
3月末～	横浜市の博覧会HP大幅リニューアル。随時更新
4月～6月	旭区・瀬谷区内の幼保・小中高等学校等に対して説明
4月～10月	北京国際園芸博覧会の日本国政府出展エリアでの広報活動
5月	「国際園芸博覧会横浜誘致推進協議会」を設立。招致映像公表
5月～7月	横浜市内全18区の区連合町内会等に対して説明
9～10月等	旭区・瀬谷区の50周年記念事業と連携した各種広報・出展
10月頃～	チラシ（15万枚）、ポスター（1千枚）等の制作・配布
調整中	横断幕の掲出、広報ツールの制作等
通年	AIPH会議プレゼン、記者発表、記事掲載、ラジオ出演等
通年	市議会・市民団体・関係機関等に対する説明・調整・講演等
通年	全国的な誘致推進組織の設立準備等
通年	第7回アフリカ開発会議やラグビーW杯等でのチラシ配布等

機運醸成戦略のポイント

- (1) 基本方針の策定
- (2) 数値目標の設定
- (3) ターゲットの設定
- (4) ターゲット毎の段階的戦略の設定 など

【ターゲットイメージ】

国内外×全世代 / 個人×企業×団体×都市×国 / 来場・出展×バーチャル
メディア×パートナー×スポンサー / 園芸×食×農 / 文化×観光×経済
健康・福祉・医療 / 保育幼児教育×小中高等学校×大学×NPO等

【段階的戦略イメージ】

フェーズ1：関係機関・企業・地域・市民等の合意形成
フェーズ2：SNS等も活用したオープンコミュニティによる全国展開
フェーズ3：魅力あるアイディア、コンテンツの相互発信による期待感醸成
フェーズ4：ターゲット毎に訴えかける戦略的広報・動員、メディア・プロモーションによる集客
フェーズ5：成果・レガシーの発信、次世代への伝承

令和2年度(2020年)に機運醸成戦略を策定予定

横浜市の市民力、協働力

市内には、環境に関する多くの市民活動団体があり、清掃等の美化活動や、自主的な講座、啓発イベント等を開催する市民力、協働力があり、博覧会に継承・発展。

- 公園愛護会：2,478団体/昭和36年制度創設/公園の清掃、除草、樹木水やり、利用者マナー啓発等
- 市民の森愛護会：31団体/昭和46年制度創設/散策路、広場の清掃、見守り等
- ふれあいの樹林愛護会：12団体/昭和63年制度創設/清掃、動植物観察会等
- よこはま緑の推進団体：868団体/平成4年制度創設/地域の身近な緑や花を育てる活動
- 水辺愛護会：92団体/平成9年制度創設/河川水辺の清掃、イベントの実施等
- ハマロードサポーター：483団体、平成13年制度創設、身近な道路の清掃、美化活動等
- YES協働パートナー：147団体/平成21年制度創設/環境、温暖化に関する講座、イベントの実施等

**⇒ 横浜市民力発揮の最大化(環境意識・ボランティア精神の高さ、市民参加実績の蓄積)
豊富な市内NPOネットワークの活用(人材バンク的連携、市外・世界への広がり)**

ガーデンネックレス横浜と各種取組・事業との連携・展開

ガーデンネックレス横浜※

ガーデンネックレス横浜 実行委員会

名誉委員長 横浜市長

広報 専門部会

イベント 専門部会

○里山ガーデンフェスタ 専門部会

○横浜ローズウィーク 専門部会

旅行業界

鉄道・交通事業者

花き・園芸業界

造園業界

商工業界



連携・協力



連携・協力



連携・協力

広報・PR

- 交通事業者
- 旅行代理店
- 雑誌社
- 飲食店

イベント・演出

- 民間施設、企業・団体との連携
赤レンガ倉庫、横浜イングリッシュガーデン
- 民間主催イベントとの連携
日本フラワー&ガーデンショウ等

市民参加・協働

- 公園愛護会との連携
球根ミックス花壇
- 18区との連携
オープンガーデン、駅前緑化

連携・協力の輪を拡大

※2017年に開催された「第33回全国都市緑化よこはまフェア」の成果を継承し、発展させていくためのリーディングプロジェクト。公園をはじめとした市内の様々な場所を、市民とともに、花で彩り、これをネックレスのようにつないで、市内全体を花と緑あふれる都市にしていく取組

博覧会に向けた機運醸成



- 博覧会後のまちづくりのあり方
- 博覧会における来場者輸送計画
- 博覧会の機運醸成
- 検討スケジュール

検討スケジュール

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
国際園芸博覧会	AIPH 開催申請 ↓ 承認	BIE 開催申請→承認 博覧会協会設立 認定申請→承認		会場計画及び整備、参加招聘					国際園芸博覧会開催
	環境影響評価								
まちづくり 【区画整理・ 新たな交通】	土地利用 基本計画	都市計画決定 事業認可 等		工事					